

会 議 録

会議名 (審議会等名)		さがみはら森林ビジョン審議会				
事務局 (担当課)		森林政策課 電話042-780-1401(直通)				
開催日時		令和6年2月28日(水) 10時~正午				
開催場所		津久井総合事務所3階 第2会議室				
出席者	委員	7人(別紙のとおり)				
	その他					
	事務局	4人(森林政策課長 他3人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	3人
公開不可・一部不可 の場合は、その理由						
議 題		1 開会 2 議事 (1) 令和4年度さがみはら森林ビジョン実施計画の進行管理について (2) さがみはら森林ビジョン後期実施計画の見直しの考え方について 3 その他 4 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 開会

2 あいさつ

森林政策課長挨拶の後、次第に従い、会長が議事を進行した。

3 議事

審議に先立ち、会長から事務局に会議定足数及び傍聴者の有無について確認がされた。

委員の過半数以上の出席と傍聴希望者がいることを報告し、審議会での承認を得た後、傍聴者が入室した。

(1) 令和4年度さがみはら森林ビジョン実施計画の進行管理について

進行管理シート(重点事項その1)について、事務局から令和5年8月2日(水)及び11月13日(月)の本審議会の評価・意見に対する事務事業担当課からの対応を説明後し、質疑応答を行った。

【「重点事項その1」に係る審議会からの意見、質疑応答等】

事業コード1-2-1 さがみはら森林ビジョン普及・啓発事業(1)

(松本会長) アンケート調査を実施を検討するとあるが、今回資料配布している森フェスと同じようなアンケートを行うのか。

(事務局) 質問内容については検討させてもらいたい。

(松本会長) アンケートを実施検討するということだが、アンケートの設計は、しっかり内容検討しなければ、数字をとっただけで終わってしまうため、可能であれば審議会で考えるとか、私の方に相談いただければ一緒に考えたい。

(中島委員) いろいろな産業のデジタル化やマーケティングのデジタル化があるが、アンケート調査をやる場合、利用化・可視化の方向性になってきている。林業に取り入れるのは難しいとは思いますが、意識してやっていくことが時代の流れに即したものと考えます。

(事務局) 今後の事業では、イベントに限らず講座等でも、参加された方がどう感じて、どういったところに課題を感じているのかなどアンケートにより把握していきたい。目的によって設問も変わってくるため内容は検討したい。

(松本会長) 森の写真を何種類か見せて、どっちを好みますかという質問でスコアとして出すことができる。間伐が入っている山と手が入っていない山の写真を見てもらうとか、間伐率を変えた写真を見てもらいどのような森が好まれるのかを数値として持つておくのも良いと思う。造林の理屈はあるが、データを蓄積して、市として好まれる山の姿を数値で持つということができるようになる。うちの大学と連携してもらえようであれば、大学としてもデータが取れるのでありがたい。

事業コード3-1-1 「相模原市市民の森」整備事業(2)

(松本会長) 市有林の二酸化炭素吸収量の算出についてはどうか。

(事務局) 温暖化対策の計画など目標値が掲げられていると思う。その取組の中で森林の目標値も記載されている。森林整備は脱炭素に資する取組であるが、現時点では具体的な数値の把握や目標値等は持っていない。

(松本会長) 市有林の面積はどのくらいか。

(事務局) 約300ha。

(松本会長) 森林簿やGISを使って数値を出すことは可能。

(鈴木委員) 財産区有林が約3400haあるが、市有林に準じた扱いなのか。

(事務局) 公益的要素は強いが、私有林の扱いになっている。

(山崎副会長) 基本的には財産区は、市の議会を通さないと予算が使えないため公益的な要素が強いと思う。予算は各地区の財産区管理委員会が決められているため議会も賛同している。

(鈴木委員) 財産区と市有林と一体で取り組んでいくことが必要ではないかと考えている。二酸化炭素吸収量がないと議論ができないのではないかと。企業が二酸化炭素をどれだけ削減するのか、二酸化炭素排出権はどのくらいの価格で売れるのかの基礎調査をしないと先に進まないと思う。喫緊の課題としてご尽力いただきたい。

(杉本委員) Jクレジットの進捗はどうなっているか。

(事務局) Jクレジットについては、鳥屋財産区の取組みを支援する形で1月26日にプロジェクトとして登録が認定された。2023年度分の脱炭素吸収分は、今年の秋くらいには正式に売買が可能になると想定している。制度は、脱炭素が大きな目的であり、それに対する成果としてクレジット化され、それが財源となり森林整備が循環していくことになる。

(中島委員) 民間では循環型の経済を構築する必要があり、経済界は次の段階を考えている。二酸化炭素を吸収するだけでなく、持続可能に繋げていかないと終わってしまう。公共も上手く民間との連携していけるような手法も見出していけると良いと思う。

(松本会長) 森林の成長率は、年間で何立方メートルになるのか。

(杉本委員) 成長率はわからない。

(松本会長) 1回間伐すると何年後に蓄積するのか。

(杉本委員) 3年から5年後になる。旧造林公社、水源の森の他、手が付けられていない山もあるので各データがあった方が良いと思う。

(松本会長) 市で協力いただければ、大学の方で調査が可能。科学的なデータも大事だと思う。

(事務局) 市有林350haであれば、どのくらいの調査期間が必要か。

(松本会長) 小班数にもよるが350haであれば1年で調査ができる。

(事務局) 市有林管理の手法も検討する必要があるため、別途相談させてもらいたい。

(杉本委員) 私有林でも調査可能か。うちと森林組合ができれば北と南で全然違うと思う。

(松本会長) 調査に同意いただければ可能。ヤング率も計っていききたい。

(中島委員) 協定を結んでおけば良いのではないかと。

(松本会長) 出荷するときにあると良いと思う。

事業コード 3-3-1 企業の森の整備 (3)

(松本会長) 企業としては、E S T投資やC O 2の削減が大事だと思う。是非やってもらいたい。

(中島委員) 地方創生ビジネスみたいな感じでやるべき。企業は利益が出なければやらない。投資する金融機関とか行政が連携していかなければなかなか進まないだろう。

(事務局) 企業の森はビジョンの中でも手がついていない状況がある。市民の森を中心という考え方が、被災によって方向転換せざるを得ない状況がある。市有林の新たな活用方法の検討の中で、市民の森以外の市有林であっても企業の森としてメニュー化できないか検討を開始したところ。

報告するまでには至っていないが、いくつかの企業から現場を見たいといった問合せも来ている。審議会のご意見などを参考にしながら、引き続き取り組んでいきたい。

(松本会長) 市内には信用組合や信用金庫はいくつあるのか。

(中島委員) 市内には地銀が多い、津久井地域では山梨信金などがある。

(松本会長) ローカルな信用組合などの方が相模川流域として声がかかけやすいのではないと思う。

事業コード 4-1-1 さがみはら津久井産材素材生産量の拡大 (4)

事業コード 4-1-3 地産地消の促進 (5)

(松本会長) 公共建築物の木質化を計画的に進めるための庁内組織の設置を検討するとあるが、庁内の感触としてはどうか。

(事務局) 木質化の方針を立てたが、各課にどの程度浸透しているのかという話はある。基本的には施設の改修時に合わせて木質化するという事は認識されていると思う。予算の関係など改修時に合わせないと木質化の予算の理由が付きにくい。いざ木質化の話を受けても林業者が対応できないという話もある。

庁内横断的な組織を設置し、木質化の考え方を庁内で共有できる仕組みを検討したい。また、市の中で決定した内容は、情報提供していければと考えている。

(松本会長) 大きな組織のため難しいとは思いますが、引き続き検討いただきたい。

議会で相模原の森や木の話はでたりするのか。

(山崎組合長) 県議会は話が出ている。水源林の補助金の話が出るということで、森林組合で傍聴に来て欲しいといった話があった。県議会には地域からの議員がいるため話がでるのだろう。

(事務局) 市議会にも熱心な議員はいる。

(中島委員) 行政の役割分担に歴史があってなかなか難しいところはある。

(松本会長) 意識を浸透させるということも大事なので是非やってほしい。

(中島委員) 公共の話だけではなく、民間にも森林政策課から働きかけが出来ると良い。

(杉本委員) さがみはら津久井産材利用拡大協議会でもタイムリーな情報共有について話が出た。

(松本会長) どのようなコーディネーターが必要なのか。

(杉本委員) 素材生産者から、いつ頃伐るといった情報を出していくようだろう。

(松本会長) ドイツでは、フォレスターと言われる方が情報を集めている。製材所で年間40万立

方メートル、1日に2千立方メートルの調達を専従の職員1人とパートタイマー1人でやっているということだった。100km圏内で集めている。こういった方がいれば良いと思う。

(事務局) さがみはら津久井産材利用拡大協議会の中では、現場の状況やユーザーの意向などについて、協議会のメンバーで共有したらどうかという話が出た。

(松本会長) 会員だけが見れるような情報共有でも良いと思う。

(事務局) LINE みたいなものでも良いと思う。

(松本会長) そういったものを使って、オンタイムで見れる情報があると良い。

(淵上委員) イベントの際にさがみはら津久井産材はどこで買えるのかという話があった。使いたいけど売っていないという話もある。一般の方でも買えるようなものがあると良い。

(松本会長) メルカリのような材木版があると良い。

(中島委員) 森林組合と建設業組合とか連携する方法もあるのではないかと。

(山崎副会長) 保管場所と管理が課題となる。

(葦山委員) 市のホームページとかにリンクを張って、そこから情報が見れば良いと思う。

(山崎副会長) 林業者はどの場所で仕事しているのかは大体わかる。

(中島委員) 地元の商工会もわかっていると思うが、離れてしまうと分からなくなってしまう。

例えば需要と供給の話では、市街地の方が利用は多い。情報のネットワークが出来ればビジネスチャンスも広がると思う。

(松本会長) 木の平均直径とかの情報も入っていればイメージしやすい。

(葦山委員) 取材担当がいれば良い。

(松本会長) 写真を撮って掲載すればわかりやすい。来年度の検討事項になれば良いと思う。

事業コード 5-1-1 市有林の整備事業 (6)

(松本会長) 最初の時点で目標値と実際が乖離している状態であり評価がBかCになってしまう。

市有林の整備をする地区の基準などはあるのか。

(事務局) 町の時代に作った計画をベースにしている。現場を見ながら整備する箇所を決めている。

(山崎副会長) ドローンを使えば調査は簡単にできようになった。

(杉本委員) かなり精度は高いが、太さなど太陽が出ている出ていないで差が出てしまう。

(松本会長) 現地とドローンのハイブリッドで調査が必要になるだろう。

(事務局) 基本は、県の地域水源林の補助金を使ってやっているが、大枠は町の時に作った考え方をベースに5年間の実行計画を見直しをしながら整備している。森林環境譲与税も始まり、水源林事業に該当しない箇所は、森林環境譲与税を使って個別に対応している。

(松本会長) ドローンや地上レーザー測量を使うにしても、施業診断を含めて市有林の調査は必要だろう。それに従って整備計画を立てれば、5年後・10年後・15年後の整備の色分けができる。

(中島委員) 県の水源環境保全税の令和9年以降の話は整理できたのか。

(事務局) 県からの正式な方向は出ていない。今年度、県民会議からの意見を踏まえ、市町村の意見も聞きながら形にしていくのが県のスタンス。現時点では不透明な状況ではある。

(中島委員)市の考え方・方向性はどうか。

(事務局)基本的には水源環境保全税がなくなっても、現在の事業は継続して行ってもらえるよう要望もしている。

(山崎副会長)県の自然保護奨励金が無くなって森林整備も減ってきた。学校林で学校に貸していた場所もあった。木が売ればもっと違う方向になったかもしれない。

(中島委員)財産区も線下補償が入らないで運営形態がだいぶ違う。森林ビジョンで検討もしているので、現実的に財産区の話もしていかなければならないと思う。

(事務局)財産区は区役所が所管しているため直接携わってはいないが、一つの手法としてJクレジットや森林信託など、山を継続して管理をしていただく手法を紹介している。財産区によってさまざまで、関心を示す財産区もあれば、難しいという財産区もある。

(松本会長)声をかけやすいところからやってもらって実績を作ると良いと思う。

市有林の整備については、市有林がどうなっているのかデータを取るということも大事だと思う。整備とは別に調査を行ったということであれば評価に値すると思う。

事業コード5-1-1 私有林の整備事業(7)

(松本会長)私有林については、林業者にも集約化を進めていただき、できるところを整備していただければと思う。従前のとおり進めていただければと思う。

(鈴木委員)昨年、森林経営監理制度ができ、市が所有者から経営管理委託を受けられるようになったが、意向調査はどうなったか。

(事務局)現時点では、森林経営監理制度を活用し、市が森林管理を受託する予定はない。ただし、地権者と林業者のマッチングに市が関われないか検討しているところ。

市が委託を受けて、林業者に再委託するためには研究が必要である。

(鈴木委員)森林経営監理制度の財源は、令和8年度から使用できるのか。

(事務局)森林経営監理制度の財源は、森林環境譲与税を想定している。なお、譲与税は今後も継続されていくものと考えている。

(2)さがみはら森林ビジョン後期実施計画の見直しの考え方について

さがみはら森林ビジョン後期実施計画の見直しの考え方について、事務局から説明後、質疑応答を行った。

(松本会長)中間見直しはせずに、令和9年度に全面改訂するという理解で良いか。

(事務局)令和9年度の全面改訂といっても、その前から準備しなければならない。審議会に諮問させていただき答申いただくようになると思う。そのあたりも踏まえて検討させていただきたい。県の大綱終了後の施策は、市に大きな影響があるため、それを踏まえ森林ビジョンの見直しは行っていききたい。

今回、実施計画の事業目標については、見直しまでの間の評価のための補足指標を追加する形で

審議会の評価をお願いしたいと考えている。

(松本会長) 7の私有林の整備は、目標がクリア出来ているため良いと思う。6の市有林については単年度整備12haでも厳しいのではないかと。

(事務局) 整備面積として12haは難しいとは思いますが、作業道の整備など合わせた形で、実際の作業について評価いただければと考えている。

(松本会長) 路網や作業道の整備をどう評価するのはちょっと難しいと思う。

(事務局) 補足指標の考え方は、実施計画自体の見直しは先送りさせていただきたいということが1点と、審議会で出ていた中で、状況が変わり、現状のままの指標では評価できなのではないかということで補足指標を提案させていただいた。累計ではなく単年度の整備面積としている。

令和6年度は青山地区を中心に13haの整備する予定となっている。事前に調査に入るため多少前後する可能性はある。

(松本会長) 計画を立てた時点で年間12haくらいを整備していこうということなのかと思う。

累計面積ではなく、単年度の面積を評価指標にしていくということで良いか。

(事務局) そのように考えている。その他空欄になっている事業についても、評価をするための補足指標が必要ということであればご意見をいただきたい。

(松本会長) 12haの整備は大きいと思ったが、計画は想定できているということなので頑張りたい。今後、累計での評価はしないということで、単年度で評価することにご異議はないか。

(委員一同) 異議なし。

(葦山委員) 私有林の確保について、予算の獲得や基金の設立の内容は盛り込めないか。

(事務局) 現在の考え方は、先ほどの担当課の考え方の中でお答えしたが、私有林の買い取りについては、具体的に検討するまでには至っていない。

(山崎副会長) 1に市民向け森林体験教室とあるが、子ども向けの教室はできないか。旧津久井地域の子どもと南の方の子どもでは興味に差がある。3月に子どもたちを集めて森林体験教室を計画したが集まらない。地球温暖化やCO2削減の問題にもつながっていくため、子どもたちを対象にしたイベントも考えて欲しい。

(淵上委員) 大野南中学校の生徒3人が見学に来て、ナラ枯れに興味を持った。学校に持ち帰りクラスで話し合いを行い、お年寄りに何か必要なものはないか聞き、自分たちでデザインしたものをナラ枯れ材で作るといった活動をした。SDGsの勉強もしているので、子どもたちに向けた森林体験教室は必要だと思う。

(中島委員) 視点を森林だけではなく、SDGsやカーボンニュートラルも含め教育委員会とも連携してやれば、違う効果が出てくるのではないかと。

(事務局) 森林体験教室は、昨年度は子どもたちを対象にした講座を2回開催し、非常に好評であった。令和6年度は、令和5年度に引き続き、大人の方を対象にコミュニティービジネスの視点をとりにれた中山間地域対策に繋げていく講座を予定している。淵上委員や学校の取組みに補助金を交付したり、学校からの出前講座の要請にも対応している。こどもを対象とした視点は重要である

と考えている。

(松本課長) 上流下流で意識の違いがあるということだが、相模原の森林については、どの程度紹介がされているのか。

(淵上委員) 森林は5年生で勉強している。SDGsの勉強もしている。

(松本会長) 森林政策課で森林の授業の時に資料を配ってもらい、一言説明を付けてもらえれば裾野も広がる。教育委員会とも連携してやってもらえれば良いと思う。

(淵上委員) 森林政策課で対応した富士見小学校の講座がきっかけで、木工をしたいという話や植林を体験したいと話に繋がっている。

(松本会長) 教育委員会に働きかけをお願いしたい。

相模原市の水道の水源はどのような割合か。

(中島委員) 神奈川県は2/3は相模原の湖で出しているのではないか。

(山崎委員) 藤野地域でも谷ヶ原浄水場から引っ張って来ているのではないか。

(松本会長) 絶対に必要な水をキーワードに森林も紹介してもらえれば良いと思う。1%でも興味をもってもらえれば良いと思う。

(事務局) 今回の補足指標については、これで5年間固定するのではなく、ご意見いただきながら追加していただければと思う。

4 その他

・令和6年度の視察先の日程・視察先は、松本会長に相談させてもらうこと了承された。

・淵上委員からBS朝日が放映された「アリオ橋本の森フェス」や「TBSのSDGsイベント」で作成された森林の動画について紹介があった。

4 閉会

以 上

さがみはら森林ビジョン審議会 出席者名簿

(50音順)

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	鈴木 憲一	公募委員		出席
2	山崎 和彦	さがみはら津久井森林組合 代表理事組合長	副会長	出席
3	杉本 貴広	有限会社 杉本林業 取締役		出席
4	中島 伸幸	公益社団法人 相模原市観光協会 専務理事		出席
5	萠山 藍	公募委員		出席
6	淵上 美紀子	一般社団法人 さがみ湖 森・モノづくり研究所 代表理事		出席
7	松本 武	国立大学法人 東京農工大学大学院 農学研究院 准教授	会 長	出席